

平成29年度 立川市読書アンケート調査結果について

立川市図書館では、平成29年度に子ども読書活動の推進を図るため、第4次子ども読書活動推進計画の策定を予定しておりますが、その参考とするために、市内小学校・中学校全児童・生徒対象のアンケート調査を実施いたしました。

調査にあたりましては、多くの方のご協力をいただき、ありがとうございました。ご協力いただきましたアンケート調査の結果について、次の通り概要がまとまりましたのでお知らせいたします。

実施時期	平成29年10月から平成30年1月
対象	小学校・中学校全児童・生徒
実施方法	学級ごとに挙手による集計 ・本を読むのが、好き、どちらかというと好き、どちらかというと嫌い、嫌い ・実施日から1ヶ月間の読書冊数 ・実施日から1ヶ月以内に学校図書館で本を読んだ、または借りたか ・実施日から1ヶ月以内に市立図書館で本を読んだ、または借りたか

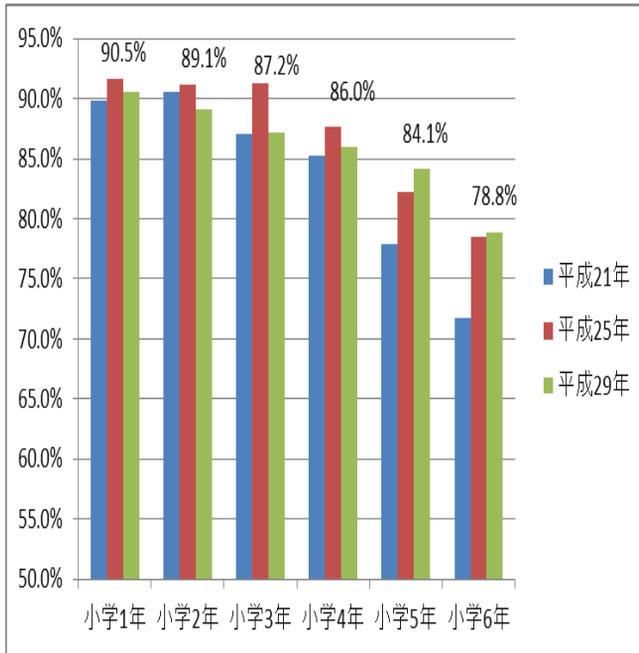
※ 平成21年度は、市図書館がH21年3月に行った全児童・生徒アンケートよりの数値。ただし、中学生の数値は実施時期が進路決定時期だったため参考資料とする。

※ 平成25年度は、平成25年10月から11月に実施

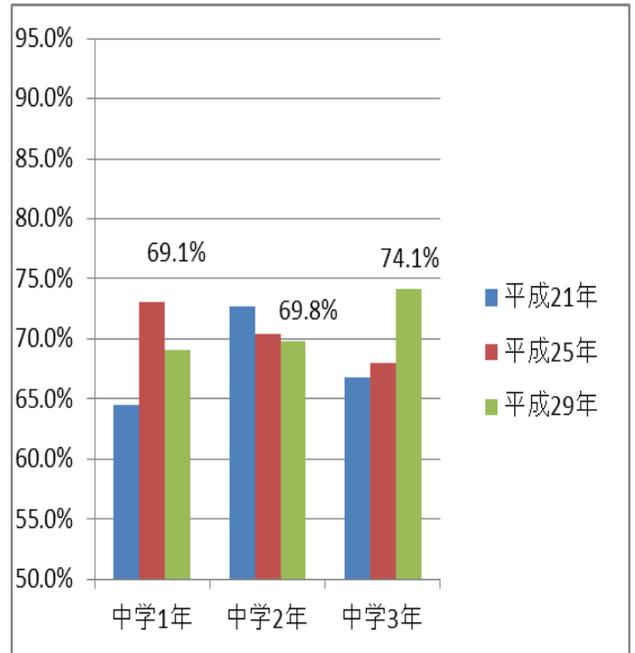
読書の傾向

－ 「本を読むことが好き」「どちらかというが好き」と答えた割合 －

小学生



中学生



	平成21年	平成25年	平成29年
小学1年	89.8%	91.6%	90.5%
小学2年	90.6%	91.1%	89.1%
小学3年	87.0%	91.3%	87.2%
小学4年	85.3%	87.7%	86.0%
小学5年	77.9%	82.2%	84.1%
小学6年	71.7%	78.5%	78.8%
特別支援学級			84.5%
平均	83.7%	87.0%	86.0%

	平成21年	平成25年	平成29年
中学1年	64.5%	73.0%	69.1%
中学2年	72.7%	70.4%	69.8%
中学3年	66.8%	68.0%	74.1%
特別支援学級			85.4%
平均	68.0%	70.5%	71.2%

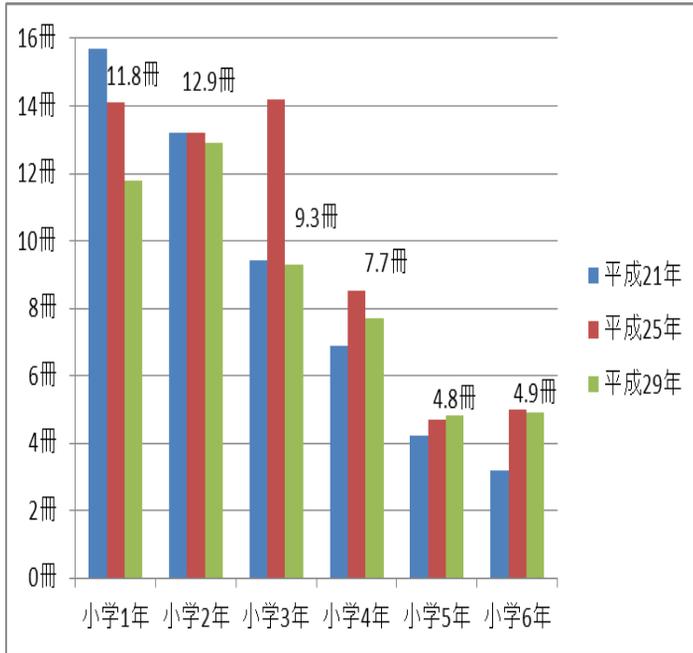
読書の傾向

本を読むのが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合は、小学生の低学年で減少しているのに対し、高学年では増加傾向にあります。その傾向は中学生でも同様の傾向を示しています。全体では子どもの読書離れの傾向が、小学生にやや表れているといえます。今後、全小学校での朝読書の取り組みやボランティアによる読み聞かせ、市立図書館から学校への団体貸出の拡大・定着化など改善に向けた取り組みを進めていく必要があります。

読書冊数(1)

- 1ヶ月間の平均読書冊数 -

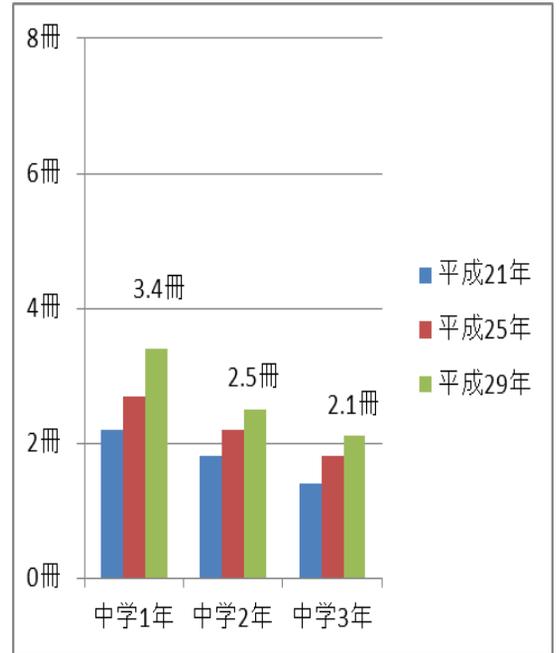
小学生



	平成21年	平成25年	平成29年
小学1年	15.7冊	14.1冊	11.8冊
小学2年	13.2冊	13.2冊	12.9冊
小学3年	9.4冊	14.2冊	9.3冊
小学4年	6.9冊	8.5冊	7.7冊
小学5年	4.2冊	4.7冊	4.8冊
小学6年	3.2冊	5.0冊	4.9冊
特別支援学級			4.5冊
平均	8.8冊	10.0冊	8.5冊

学校読書調査	8.6冊	10.1冊	11.1冊
立川の小4 ~6年平均		6.0冊	5.8冊

中学生



	平成21年	平成25年	平成29年
中学1年	2.2冊	2.7冊	3.4冊
中学2年	1.8冊	2.2冊	2.5冊
中学3年	1.4冊	1.8冊	2.1冊
特別支援学級			5.0冊
平均	1.8冊	2.2冊	2.7冊

学校読書調査	3.7冊	4.1冊	4.5冊
--------	------	------	------

※学校読書調査

全国学校図書館協議会が実施する全国規模の調査

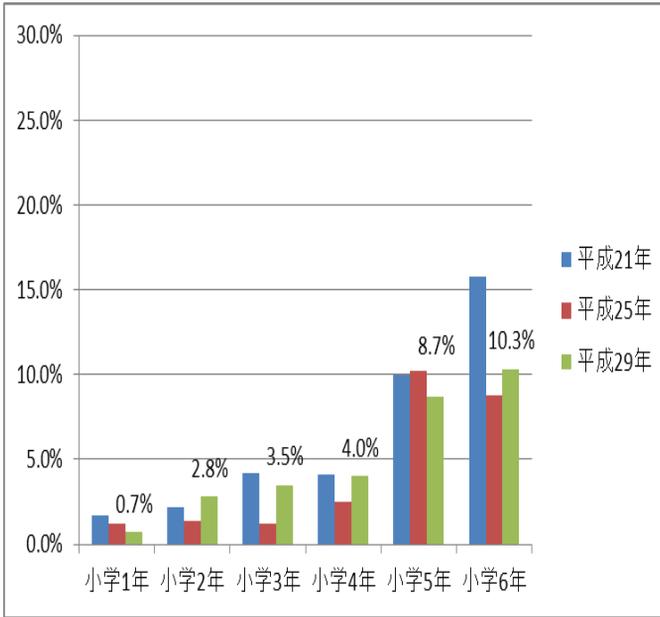
毎年6月実施

対象:小学4~6年、中学1~3年

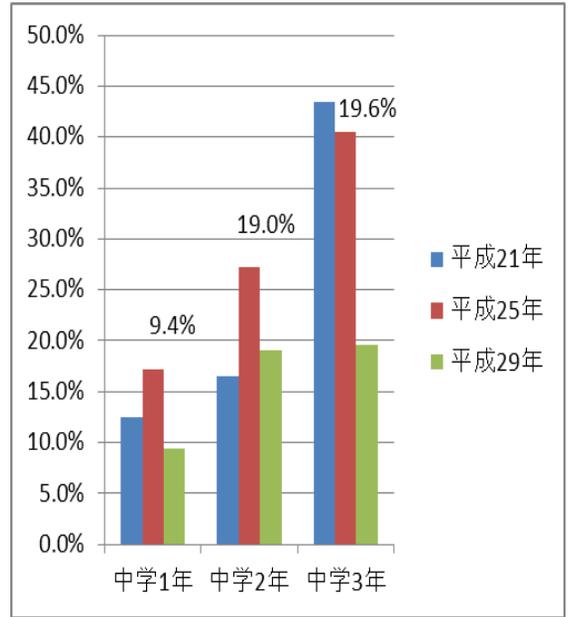
読書冊数(2)

- 1ヶ月間の読書冊数が0冊の割合 -

小学生



中学生



	平成21年	平成25年	平成29年
小学1年	1.7%	1.2%	0.7%
小学2年	2.2%	1.4%	2.8%
小学3年	4.2%	1.2%	3.5%
小学4年	4.1%	2.5%	4.0%
小学5年	10.0%	10.2%	8.7%
小学6年	15.8%	8.8%	10.3%
特別支援学級			6.8%
平均	6.3%	4.2%	5.0%

	平成21年	平成25年	平成29年
中学1年	12.5%	17.2%	9.4%
中学2年	16.5%	27.2%	19.0%
中学3年	43.4%	40.5%	19.6%
特別支援学級			19.5%
平均	24.1%	28.3%	16.1%

学校読書調査	13.2%	16.9%	15.0%
--------	-------	-------	-------

学校読書調査	5.4%	5.3%	5.6%
立川の小4 ~6年平均		7.1%	7.6%

読書冊数(不読者率)増減の傾向

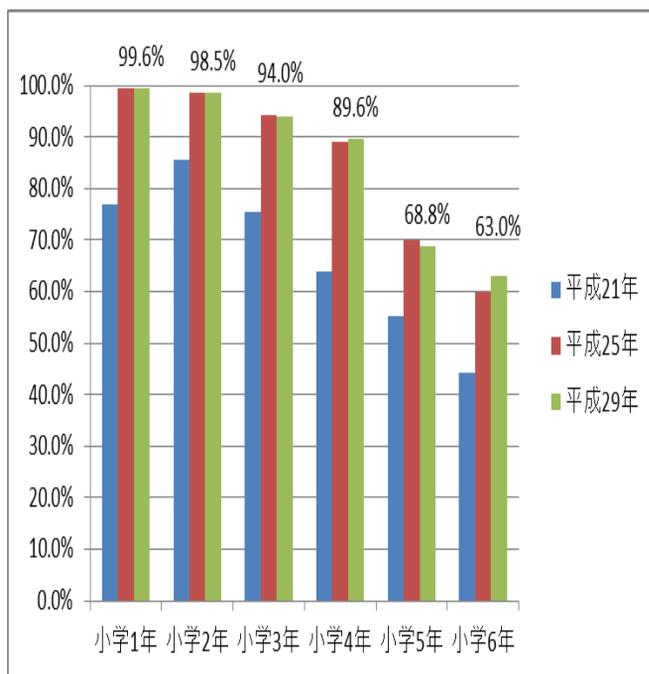
小学生については、平均読書冊数の減少が見られ、1ヶ月に0冊の不読者率も増えていきます。小学校では読書習慣の定着率向上が急務の課題といえそうです。

対して、中学生については、平均読書冊数は全学年で増加し、不読者率も全学年で大幅に減少しています。これはテレビや映画で話題となった作品の存在が、中学生の不読者率減少につながったとも言えますが、学校現場においても生徒の探究的な学びを読書というツールでサポートしてきた成果が浸透してきたものといえます。

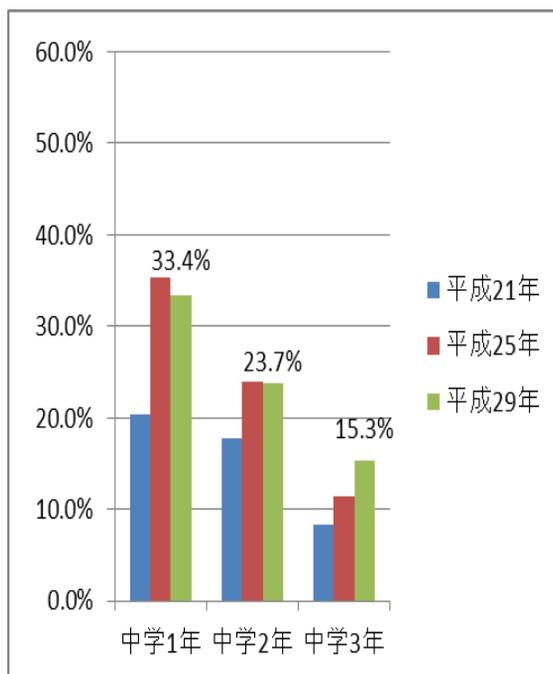
図書館の利用(1)

- 1ヶ月間で学校図書館を利用した割合 -

小学生



中学生



	平成21年	平成25年	平成29年
小学1年	76.8%	99.6%	99.6%
小学2年	85.6%	98.6%	98.5%
小学3年	75.6%	94.4%	94.0%
小学4年	63.9%	89.1%	89.6%
小学5年	55.4%	70.1%	68.8%
小学6年	44.3%	60.0%	63.0%
特別支援学級			94.2%
平均	66.9%	85.3%	85.5%

	平成21年	平成25年	平成29年
中学1年	20.4%	35.3%	33.4%
中学2年	17.7%	23.9%	23.7%
中学3年	8.3%	11.4%	15.3%
特別支援学級			41.5%
平均	15.5%	23.5%	24.3%

学校図書館の利用

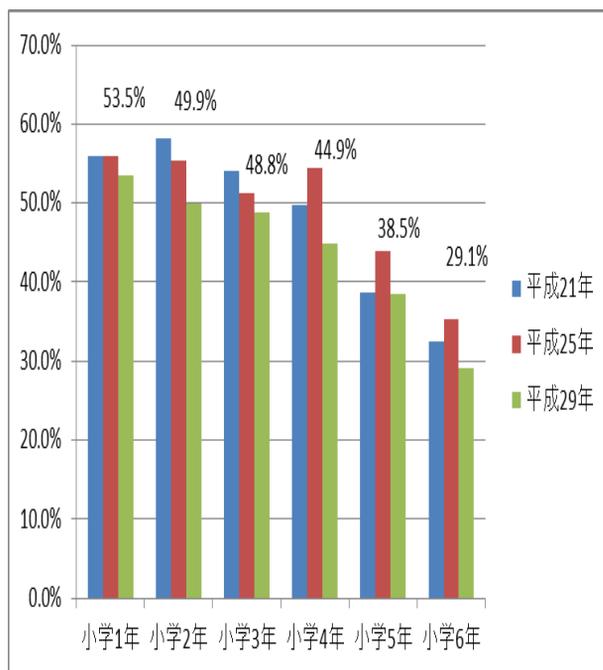
小学生も中学生も共に、前回と比較して安定した数値で推移しており、授業での学校図書館の利用が定着してきたことが伺えます。また、学校図書館支援員の導入効果なども大きな要因のひとつとして考えられます。

特に中学3年生については、顕著な伸びを見せており、学校図書館を利用した授業指導に一定の成果が表れているものと思われます。今後は、寄附金の活用や市立図書館の児童担当者と連携した蔵書の充実にも努め、生徒の読書習慣の向上につながるよう環境の整備に努めていく必要があります。

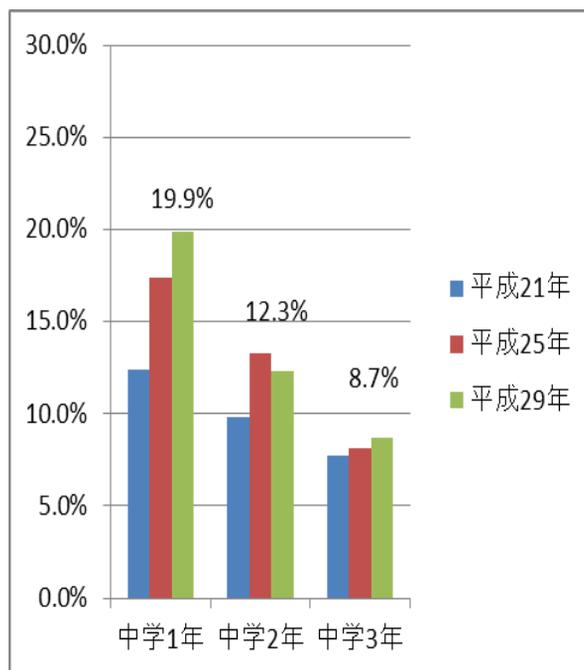
図書館の利用(2)

- 1ヶ月間で市立図書館を利用した割合 -

小学生



中学生



	平成21年	平成25年	平成29年
小学1年	56.0%	55.9%	53.5%
小学2年	58.2%	55.4%	49.9%
小学3年	54.0%	51.3%	48.8%
小学4年	49.8%	54.5%	44.9%
小学5年	38.7%	44.0%	38.5%
小学6年	32.4%	35.4%	29.1%
特別支援学級			37.9%
平均	48.2%	49.4%	44.1%

	平成21年	平成25年	平成29年
中学1年	12.4%	17.4%	19.9%
中学2年	9.8%	13.3%	12.3%
中学3年	7.7%	8.1%	8.7%
特別支援学級			19.5%
平均	10.0%	12.9%	13.6%

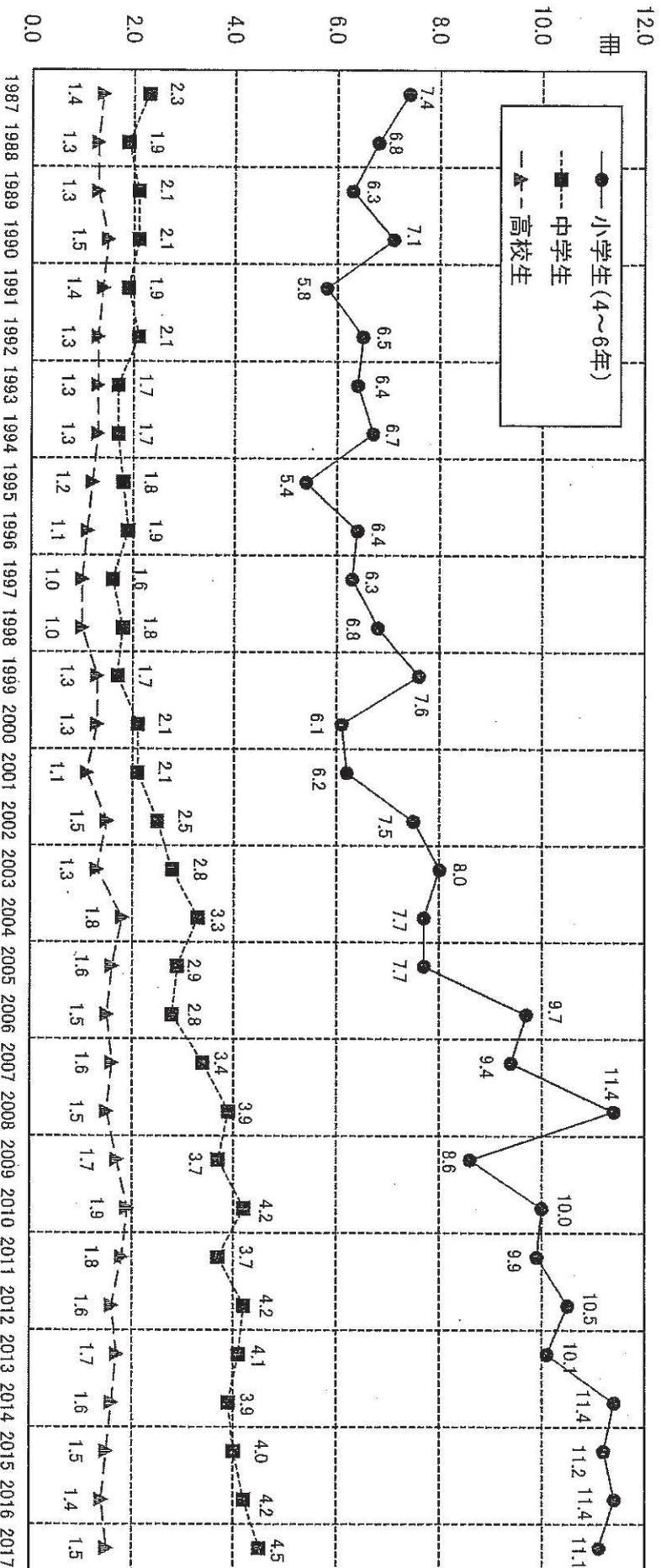
市立図書館の利用

中学生は前回と比較して、全体的に微増しており、図書館のYAコーナーを充実させ利用促進を図った成果が表れたものと思われませんが、小学生は全学年で減少しています。その要因の一つに学校図書館の利用定着が挙げられますが、市立図書館の利用率が上がることは、子どもたちの読書率の向上に結びつくものです。より子どもたちの興味・関心を引く図書の設定やブックトーク、ビブリオバトル等の開催など、魅力ある図書館を目指して、様々な視点でのアプローチを積極的に検討していく必要があります。

「第63回学校読書調査」の結果

● 平均読書冊数

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移

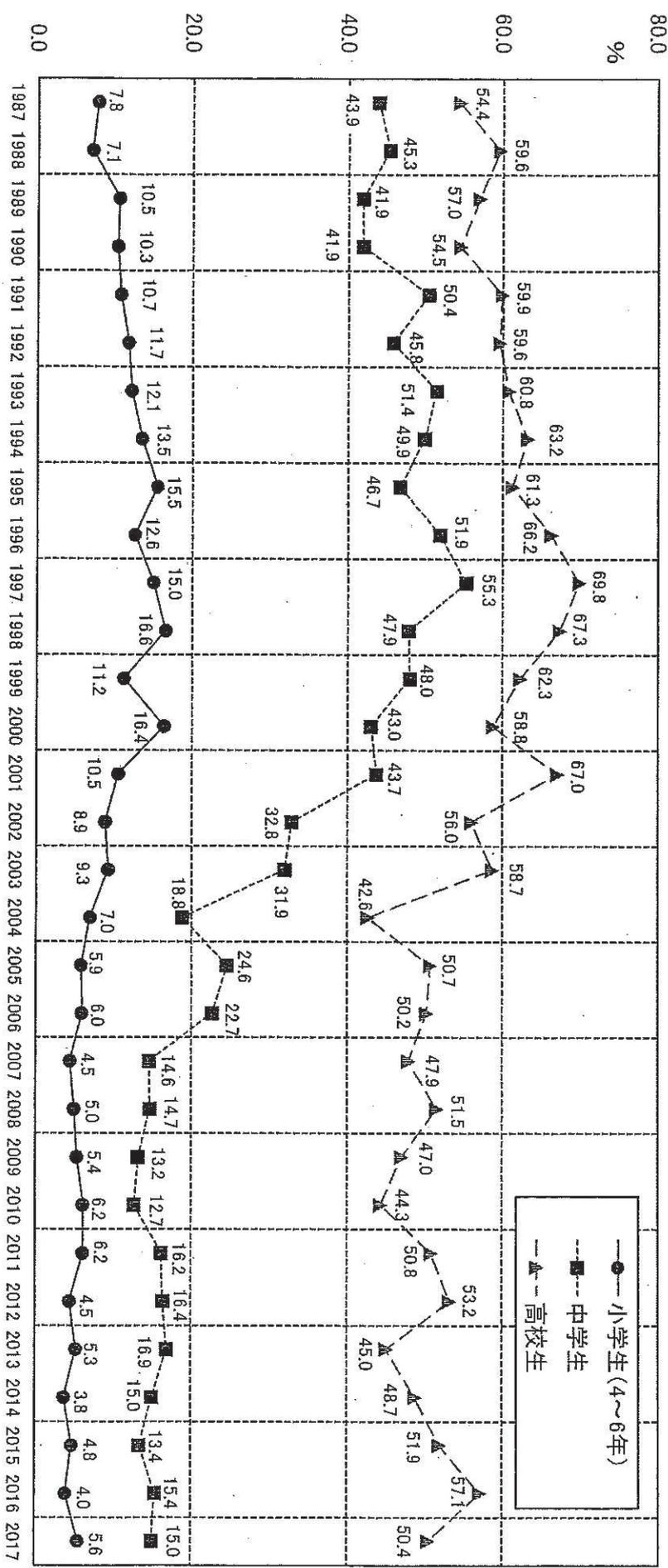


2017年5月 1か月間の平均読書冊数は、小学生は11.1冊、中学生は4.5冊、高校生は1.5冊となっています。

「第63回学校読書調査」の結果

●不読者数の数

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



この調査では、2017年5月1か月間に読んだ本が0冊の生徒を「不読者」と呼んでいます。今回の調査の結果では、不読者の割合は、小学生は5.6%、中学生は15.0%、高校生は50.4%となっています。